

# 3

## 日本という国「縄文の終わり」

日本を見つめ直し、楽しく生活、仕事しましょ、シリーズ

弥生時代は紀元前3世紀からといわれますが、日本の国土で初めて戦いが始まった時代として知られています。

寒冷化という自然環境の悪化が争いの原因だったという説がありますが、縄文初期や中期にも寒冷化は起こっていますが、争いの証拠は残っていません。

明治維新は、国外の環境の変化に覚醒した人達によって争いが起こり、国の形を変えることになりましたが、弥生時代にも同じことが起こった可能性があります。

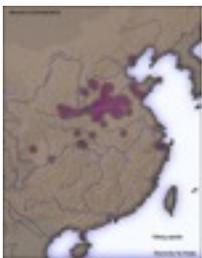
日本の国土に住んでいる人達にとって、存亡にかかわる問題が初めて国の外で起こっていたからです。縄文の争いの無い、幸せの時代が終わりました。

中国の最古の王朝とされる夏から殷など王朝の交代は民族の虐殺、奴隷化の連続でした。秦は、中国で初めての多民族統一王朝ですが、広大な領土を支配し、それに続く漢はさらに巨大になります。

強大な国が近くに現れたことと、日本で初めて戦いはじまった時期が一致しているのは偶然とは思えません。

以後、私達の歴史は、①大和朝廷による国としての統一をはかり、豪族が勢力を持つ時代に仏教を導入し、神道と仏教という精神的支柱を得、②次に豪族の支配を取り除き、天皇に権力を集中させる律令国家にすることにより国力を増強し、③律令国家の限界のはじまりとともに貴族文化が花開き、現在の日本文化の基礎がつけられ、④貴族支配が衰えるときに、武士が発生し、現在の国の形と同じ、統治しないが権威としての天皇と、統治する機関としての武士の幕府が発生し、⑤誕生したばかりの未熟さゆえの混乱した状況の間で、わびさびの観念が発生し、現在の、能、狂言、茶の湯、生け花などの現代につながる伝統文化が発生し、⑥中世から近世につながる強固な封建制度が確立し、長い平和を獲得したが、⑦強固な封建制度による平和な時間の蓄積は武士の発酵をうながし、哲学的要素をもつ侍に変化し、強固な封建制度による武士への抑圧は、⑧国全体のエネルギーが庶民に流れて、一般の町民、農民の世界に類のない民度の上昇が起こり、庶民文化が花開き、⑨次に西洋文明による地球規模の植民地化に接し、再び防衛本能による覚醒が起こり、植民地化を防ぐために急速な西洋化、軍事分野の強化にまい進し、アジアで初めて近代化に成功し、西洋植民地時代にアジアで唯一、西洋列強とその従属国家と全面的な戦いとなり、⑩最終的に負けることになり国の資産の6割を失うが、勤勉で誠実な国民性は西洋の世界基準と同質であったため急速に復興し、西洋の技術を学びながら新たな技術革新をみずから起こす能力があったために、現在の、国民がその能力を十分発揮し、目標としていた西洋世界に追いつき、部分的には越える状況に至る、連綿とした世界に類のない長い、進化し続ける歴史をつくってきました。

中国では王権の交代による中央集権が繰り返し替えされただけでした。



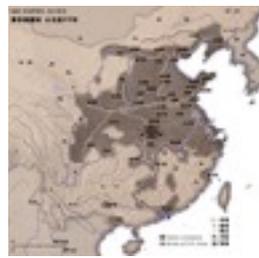
殷  
紀元前17世紀  
から前1046年



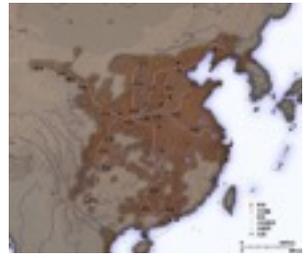
周  
紀元前1046年  
から前771年



春秋戦国時代  
紀元前770年  
から前221年



秦  
紀元前221年  
から前206年



漢  
紀元前206年  
から紀元220年

怖くない

怖い

かなり怖い

↑  
内輪もめで怖くない